

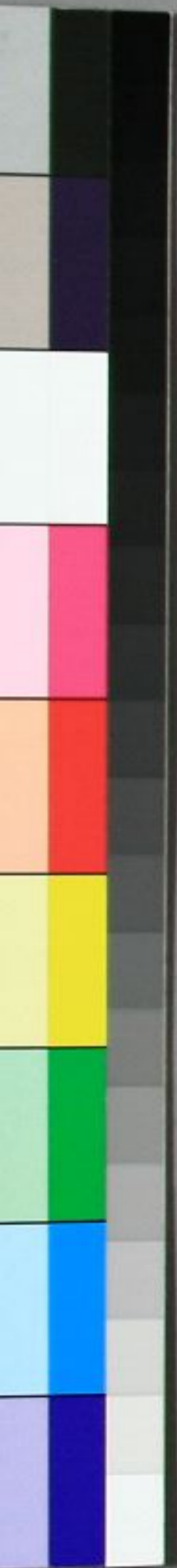
貞丈雜記

膳部
仍益之部
類部

七



73
233
7



らけの下よりけおの備を甚よしう形をまひり
物也本式の膳部ハ皆白木ヲ食おかりけり
てけけ物の上よりけりけを成る也食物の不より
て白木のけけ物ももる也

一 多むこし多物主將軍の時代よりあり一也寛永
年中南蛮国より海より一也その古旧記より多むこの
るか一今の世のあり一也貴人の前よりハ多むこ
を汲らぬを礼とするより尤あるなり

一 折と云ハ木を折けて給ふ也折と云是を折と云
文明三年二月二十七日而方折る也折る所進上而折三合さす角す日記三合より折
折り折付るハあり折今そ甚をして甚是を折る也

折花おト
フ時ハヨリ
ツモト
云ナリ

つても折を折付るよりか一甚よりつるの上へ水引をか
けて後也鞍川祀云折ハ三献め五献めより一集而可然ル
也去 献殺かき時ハ二献めより一集ルキそくの物ハ俗者ハ
すりずル 折の内ニしらりおきそくしる物也ハ
著るにさるまきそくの折きそくを以て志 又折勝より
すりりゆりも志むりをもりげりとき、片持出ル也
志むりハ水引より折を治るを之今時折と云ハ折
志ミを折付るをも折を志め削り花をよみよ
さつ先也是ハ古ハ折ハいしづ櫃折と云也 折金入は折る也
お入る進物の部ニ候
一 折りよ折りよハ折手長のより云後三部ニ記ス
一 折りけおのより折りたにらと云後折りけの也

海人漢文
 鐘のへい
 二枚
 同
 出東酒
 盛故也
 貞丈
 名
 二枚
 入ルコトナリ

小ぢりより大なるを三つ入り云三つ入より大なる。大ぢり
 と云小ぢり小討りたる名を又三つ入より大ぢり以下
 三つ入り大ぢり大ぢり三つ入り大なるを三つ入り云五
 入より三つ入り大なるを三つ入り云それより九入入十で
 入十三入十五入十五入十五入十五入十五入十五入十五
 入十五入十五入十五入十五入十五入十五入十五入十五
 酒との時書をもりや出す時用色四紙よりけり
 とありはけり也

海人漢文
 塞白界ト

一そくびりよりけり式勝部記に大ぢりよまの信を
 二ひりよりけり志くく一そく貞衡之をひりよりけり

一あいの物と云りけりあり大なるおの書云あいの物とハ
 二入より少なり平くすうハふり

一魚いり云りけり風呂記云通の
 二入より少なり平くすうハふり

一あいの物と云りけりあり大なるおの書云あいの物とハ
 二入より少なり平くすうハふり

一あいの物と云りけりあり大なるおの書云あいの物とハ
 二入より少なり平くすうハふり

一あいの物と云りけりあり大なるおの書云あいの物とハ
 二入より少なり平くすうハふり

一あいの物と云りけりあり大なるおの書云あいの物とハ
 二入より少なり平くすうハふり

へか
 二枚
 二枚

經子
 一
 二

一
 二

供養の四方
三方ナドミナ
合ハ石位程
ノ時カヨミナ
ルハ仕度言
用ルナリ又ハ辛
人ノ益ガミ
用ルナリ

一 供養の四方
三方四方供養の趣名也三方四
方供養おもふは皆はいづこひ也上の巻と下の巻とを
合ハ石位程ノ時カヨミナ
ルハ仕度言用ルナリ又ハ辛
人ノ益ガミ用ルナリ
あけるを四方と云あるを一つもあけざるを供養と云
けニホハ何れも同一形也足付ハ御堂の部よありす
一 三方四方のりよあけるあるを今ハくもろしと云古ハ
げん志布と云げん志布とあると云す上巻名は
りええりげん志布と眼像と書く眼ハ目也目ハ
あるのゆ也目のくもろしと云す也目付の目を云

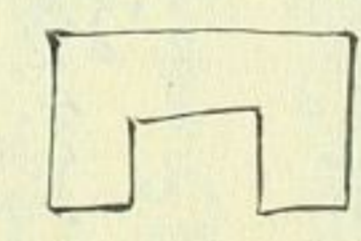
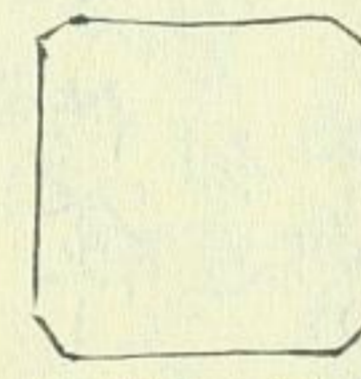
目の字も読あちのりあり是と同意也

- 一 供養のりを公卿と書し方書は供養ノ字本也
- 一 木具と云はつく桂の木の白木を修りしるを云ハ
木具也三方四方供養も木具也然るも今ハ足付のり
むろしを木具と云也
- 一 足付を足打とも云打をよ足付を打付しる也足付
乃打付しりるを思ふと足付足付と云
一 打付のりも足付のりも云也足付のりも打付のりも
るもあり足付のりも打付のりも云也
一 足付のりも打付のりも云也

依りしるおまを云

一 かんちん又かきりとも云ふに在るおまかんを云ひてう
いづしきけはく依りしるおまを云

一 角のちおまとも又角と云ふとも云ふ四角の角を切りしる
おまのり也

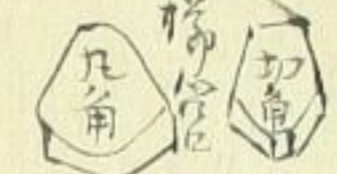


おまのりあり
おまハおまは是存ハ
是存ト是存ハ是存ト云

一 小角と云ハ右の角乃ちおまを三寸四方しる也 中角を

一 寺四方のちおま也 大角と云ハ八寸四方也是を寸とも云

一 平おまとも云四角ハかきり切しる也 四角ハちり也是ハ



此の角三名
いづれも
この名推亮
世表末おま
依りしる
依りしる

角のちおま乃ちごとく是存するもく一用依りし

一 角切らずとも平おま乃ち也 東山歴年中記事
管領ハ川渡角不り云あり云あり

一 今時ハ年改るとも云位定長れやしも者も云と云
三方小のちおまありしり 古ハ三方ハ平人の用物

一 ありしり云ハかきりおま又ハ角のちおまありしり
人共人のちおまを持て是限のち角のちおまありしり

一 ありしりともありしり平人の三方を用ふたは云しる也

三光院内府記
云此四方
大臣以六四方
大角以下
三方也
三光院内府記
云此四方
大臣以六四方
大角以下
三方也

一 是のちおまは人の位より定はありしり
用四方し由程存致曾以是其詞評註於中
所相傳之詞情華之中御言自前ハ三方相定是也

一古の秘儀も常也也 蓋し其の略ありけ也ぬり蓋
とありてハ近代の事也今も其を秘ぬりてくち
むくすのうりけをまぢびくる物也京の銀閣寺
七賢の蓋とて七つ入子の蓋は晋の七賢の名を討陰
志すの蓋あり是ハ東山殿の御意也と申傳ふ是
し其物あり 東山殿時代ぬり蓋あり後作らるる感
一蓋ハ二つ折をまじりて少す物也二つ蓋より出ぬるハ
志をむる也其を軍陣の時敵の大將の首を
討て首を酒呑ぬる時又切腹ぬる人は酒のまじり
も蓋二つ蓋より出りて二献呑ぬる也常々二献を志す

け敷也 純子今世より今始に蓋二つ蓋より出ぬ
多し 一物に蓋あり也

一晴礼の時夫婦の蓋とてその中に男と女とあり
古法也男ハ陽女ハ陰也陽ハ貴く陰ハ賤し陽ハ
貴の事天地の道理也純子或は女子其ハ男女の家
はては夜をまじりて後秋夜遊入る者これハ其時女ハ
家の事と男ハ客人なる者女は蓋を男より取り
晴れの蓋女より取り男は蓋を女より取り
此の事也一云は既ある也用く
一ちがえのてししくそのてし今時の人ハ其也

一 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

一 けりけり物と云ふ大なるけりけりは酒の香をいふて出るといふ

今時神の香をいふて出るといふ也 今時神の香をいふて出るといふ也 禮記入酒の香をいふて出るといふ也

一 物のおりけり酒の香をいふて出るといふ也 物のおりけり酒の香をいふて出るといふ也

一 食籠のおりけり食籠の酒の香をいふて出るといふ也

一 瓶のおりけり星をいふて出るといふ也 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

の致ある也又うばいぬのふくも 是るくくといふ星の前

後まきの傷をいふて出るといふ也 傷の傷をいふて出るといふ也

らのきもふある星をいふて出るといふ也 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

の星といふは星をいふて出るといふ也 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

一 酒をいふるといふ九献也九陽穀をいふと云ふ也 九陽穀をいふと云ふ也

九献のむね也九献といふは唐土にあり 九献のむね也九献といふは唐土にあり

十二年乃云楚子入享子鄭九献とありその註に云

用上公之禮九献酒禮畢云

一 盃乃臺也と云ふも何れも三豆のおりけりは二つを人

乃方(向)けりありて古法也物も今も盃の臺をいふ

是二つを人の方(向)けりありて古法也物も今も盃の臺をいふ

人けり臺を知りて古法也物も今も盃の臺をいふ

凡後ありしる成り古法と違ふる也

一舊記^{キヨキ}殿中^{テンチュウ}一献^{イツケン}又一^{イツケン}献^{イツケン}の時^{トキ}あど^{アト}あ^アハ酒^{サケ}宴^{エン}の時^{トキ}

と云^{イハ}る也^{ナリ}を^ヲ一^{イツケン}酒^{サケ}を^ヲ飲^ムむ^ル後^{ノチ}ハ^ハあ^アハ^ハ一^{イツケン}献^{イツケン}と^ト云^{イハ}る

一^{イツケン}女^メの^ノ羽^{ハネ}子^コ酒^{サケ}を^ヲ飲^ムむ^ル一^{イツケン}説^{セツ}ハ^ハ文^{モン}監^{ケン}乃^ノ註^{シュ}上^{ジョウ}竹^{チク}葉^{エフ}酒^{サケ}

也^{ナリ}と^トあ^アハ^ハ竹^{チク}の^ノ葉^{エフ}ハ^ハ一^{イツケン}説^{セツ}ハ^ハ文^{モン}監^{ケン}乃^ノ註^{シュ}上^{ジョウ}竹^{チク}葉^{エフ}酒^{サケ}

又^{マタ}木^キ柶^{シヤク}綱^{カウ}目^メ竹^{チク}葉^{エフ}酒^{サケ}治^チ諸^{シヨ}凡^{ボウ}熱^{ネツ}病^{ビョウ}清^{セイ}心^{シン}暢^{チヤウ}意^イ淡^{タン}竹^{チク}葉^{エフ}煎^{ケン}汁^{ジュ}如^ニ

常^{ジョウ}醸^{カウ}酒^{サケ}飲^ムあり^{ナリ}功^{コウ}能^{ノウ}あり^{ナリ}酒^{サケ}を^ヲ飲^ムむ^ル常^{ジョウ}の^ノ酒^{サケ}を^ヲ飲^ムむ^ル竹^{チク}葉^{エフ}煎^{ケン}汁^{ジュ}如^ニ

一^{イツケン}早^{サウ}の^ノ酒^{サケ}を^ヲ飲^ムむ^ル一^{イツケン}説^{セツ}ハ^ハ文^{モン}監^{ケン}乃^ノ註^{シュ}上^{ジョウ}竹^{チク}葉^{エフ}酒^{サケ}

一^{イツケン}早^{サウ}の^ノ酒^{サケ}を^ヲ飲^ムむ^ル一^{イツケン}説^{セツ}ハ^ハ文^{モン}監^{ケン}乃^ノ註^{シュ}上^{ジョウ}竹^{チク}葉^{エフ}酒^{サケ}

一^{イツケン}早^{サウ}の^ノ酒^{サケ}を^ヲ飲^ムむ^ル一^{イツケン}説^{セツ}ハ^ハ文^{モン}監^{ケン}乃^ノ註^{シュ}上^{ジョウ}竹^{チク}葉^{エフ}酒^{サケ}

一^{イツケン}勸^{ケン}盃^{ハイ}と云^{イハ}ハ^ハ人^{ヒト}の^ノ酒^{サケ}を^ヲの^ノま^マず^ズる^ル也^{ナリ}勸^{ケン}盃^{ハイ}と書^カテ

つ^ツき^キを^ヲ飲^ムむ^ル也^{ナリ}勸^{ケン}の^ノ字^ジク^クガ^ガと^トも^モケ^ケレ^レと^トも^モよ^ヨむ^ム

右^{ミダリ}より^{ヨリ}ケ^ケレ^レハ^ハイ^イと^ト云^{イハ}る^ルハ^ハ一^{イツケン}説^{セツ}ハ^ハ文^{モン}監^{ケン}乃^ノ註^{シュ}上^{ジョウ}竹^{チク}葉^{エフ}酒^{サケ}

一^{イツケン}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}公^{コウ}方^{ホウ}標^{ヒョウ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}

白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}公^{コウ}方^{ホウ}標^{ヒョウ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}

白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}公^{コウ}方^{ホウ}標^{ヒョウ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}

白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}公^{コウ}方^{ホウ}標^{ヒョウ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}

白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}公^{コウ}方^{ホウ}標^{ヒョウ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}

白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}公^{コウ}方^{ホウ}標^{ヒョウ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}

白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}公^{コウ}方^{ホウ}標^{ヒョウ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}白^{ハク}酒^{サケ}と云^{イハ}る^ル也^{ナリ}

右の白酒ハ黒酒ノ根ヲ黒ヤキ
シテ入ト云々ハ如何ニラス

覆ふと云ハ薺子ハ母ハ昔、物也修りよれなるちよの類
をやくしうても後ハ重くするやとあるべし

一 とうり此物ハ薺子ハ後邪乃邪ニ記ス

蓬萊の
子あり

蓬萊の意乃ち古もあり東鑑卷四九正元二
年唐四月三日

庚子晴入御干入道陸奥守中息所即同車中畧ミヤストコ仰息所仰

方進風流蓬萊蓬葉又鍾田草子云君れこれ其の古也向

一 初め人なくうんけりそんや 南世もやる蓬萊らうの

ふみ君をいそひやさんうんけらうらいのまてくらみよるやと

よ入るやそれハ久入内海のまてハこりのまあれけの山度

符符りよこしぬ又うんけりおるあまをわろしと

一 今世流藝ハ云物考もろく古と流形と蓬萊も流

形乃内之例流形ハかばも身易板を修は海中流れぬをれ

海ハうり出る形有の思れわかくを例流と云これ流形ハ

例流ハと云云ハ奇を修る之と云ハ思来流るる

たを是之太平記卷廿四天竺寺
供養云云而花丸流の流形を修れ

しうち井川の系流を表して水紅錦を以て感身の色を

流りけりけり自天按例流の世の昔ハ盛ハミアラス古禁中ニテ草合
アリ其合セ物ハ多クハ例流ハ其をラハレテコレニサテ出サレニナリ深花
物語古今着聞其外右キ物語ニハハレリ長キコハ思来

一 大ざりくありする大進所の付所のむゆを云也

捲川新志野耐親之日記ニ文明十三年七月二日ある

永享堂所
行幸記云云
返り草
アリ別流
ヲ云ナリ

也公方標 は公方標は前 以王意而致相而與棟立力者肆
中也云々 しりこーのまきいりこーのまきハ末云々

一 細代おーと云々 甚き竹を子く細代ありてを
細代おーと云々 甚き竹を子く細代ありてを

一 ぬりこーと云々 漆ぬりたおーと云々 右はヲありて云々
左をぬりて思ふも云々 又まに記ス

一 ぬり成のこー也 亦云々 白也 亦云々 東山殿は妻懐
ぬり成のこー也 亦云々 白也 亦云々 ぬり成のこー也 亦云々

四者 しきも標
カ者ハ刺
髪ハ者

の時 上下 若也 左殿 正真のこー 亦云々 僕也 自親
棟立乃 子む 子と云也 公席中 日記云 四月二日
ハ時 乃云々 亦云々 は成の 亦云々 亦云々 カ
少車 子免 一ル 亦云々 亦云々 カ 亦云々 カ
カ 亦云々 亦云々 亦云々 カ 亦云々 カ
亦云々 亦云々 亦云々 カ 亦云々 カ
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

アタラシク
前ミシラ

一 作去下
 一 社誦 あり又太平記巻九 合殿イタテの痛イタテを
 肩イタテのうり多イタテ間イタテ一イタテ平イタテ取イタテし塵イタテ取イタテの早イタテ目イタテを遠イタテ
 乃イタテ海イタテ子イタテ身イタテりイタテ多イタテトイタテあり
あをさるるエをさるるこひしうありたり
あつきをさるるせりてこふしをのくちあをさるる
あつきのわらうりたりしんあつきのうりたり
 一 別記 あしたのうり又あをさるる太平記巻十 信慶
 一 アラカ 昂イタテ入イタテ道イタテをイタテ辨イタテよイタテ字イタテ々イタテのイタテ奥イタテ行イタテるイタテ帷イタテをイタテとイタテ引イタテ後イタテハイタテトイタテあり

